

# 小型底びき網の資源管理に関する研究

(複合的資源管理型漁業促進対策事業)

道根 淳・由木雄一・若林英人

## 1. 研究目的

小型底びき網1種漁業は、地域の主要産業として重要であるが、資源状態の悪化、それに伴う生産量の減少と2極化、高船齢化等が問題となっている。そのため、資源管理および経営改善のための総合的な対策を行う。

結果の詳細は、「平成14年度複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書」(発行予定)に報告した。

## 2. 研究方法

前年度作成したモデル船の設計図をもとに、仁摩町漁協小型底びき網漁業者を中心に中核的漁業者協業体育成事業を活用し、代船建造を行なった。このモデル船を対象に乗船調査、聞き取り調査を実施し、課題、問題点の整理を行い、改良・改善点の検討を行なった。

## 3. 研究結果

### (1) 小型底びき網漁業操業時における問題点

- ・直巻きウインチを逆転させての打ち回しのため、従来通りの全速での打ち回しが出来ない。
- ・揚網時のゴーヘー巻きを前提に建造したにも関わらず、船が後進状態(船速3~4ノット)での揚網となっている。そのため、波高が高い時には船尾より海水が入ってくることがある。
- ・直巻きウインチによる艫揚げ方式のため、ニギスが大量に漁獲された場合、取り込みが出来ない。さらに揚網時に漁獲物が潰れ、取り込みに時間を要するため、漁獲物の商品価値が下がる。
- ・ニギス、タイ類、イカ類といった比較的底から浮いている魚類は良く漁獲されるが、カレイ類の漁獲が少ない。

### (2) ばいご漁業操業時における問題点

- ・従来はブリッジ前方左舷側からかご揚げ、ワーピングドラム、ワインダーを用いて網の巻き揚げ作業を行っていた。新船では左舷後方より直巻きウインチに巻き取るため、風を横から受け、漁具を引き摺りながらのかご揚げ作業となるため、網が張った状態になり、危険である。
- ・直巻きウインチより網を繰り出すため、従来通りの打ち込みが出来ない。また、網の補修が出来ない。

### (3) 小型底びき網漁業における問題点の検討

- ・打ち回し方法では、①網を投入するまでは船速を落して打ち回す、②手元網を追加するといった改善を行ない、菱形となるような打ち回しが可能となった。
- ・現船の船体構造、機関馬力では揚網時のゴーヘー巻きは不可能であるため、固定ピッチプロペラから可変ピッチプロペラへの改造、船尾部分の改造を造船所、プロペラメーカーを含めて検討中。
- ・ニギスの取り込み方法は、コッドエンド部分にバンドを取り付け、網が膨れないような工夫を行なったが、揚網作業に時間を要し、漁獲物が潰れた状態で上がり、改善は見られなかった。
- ・ニギス大量漁獲の場合、今までのような艫からの揚網を諦め、フィッシュポンプを用いた漁獲物の取り込みを検討している。